

5月のコラム ～現状をあきらめない～

毎月このコラムに感想を下さる方が、元明石市長の泉房穂さんが書かれた「社会の変え方」という本を教えてくださいました。

明石市独自の子ども支援「5つの無料化」からスタートして、市民に寄り添う施策をどんどん推し進め、「本当に住みやすい街大賞 2022in 関西」では第1位となりました。10年連続人口増、明石駅南側新規出店 2.4 倍、地価 7 年連続上昇、税金 8 年連続増等と『**子ども**』から始めれば**「経済」も回る**』を実証されました。泉さんは、職員への暴言問題でこの4月に任期満了で引退されましたが、子どもの養育、街にひそむ危険、犯罪被害者支援、障がい者への配慮、高齢者の認知症対応や在宅介護支援、高校進学のための奨学金、コロナ等の緊急時の対応・・・市民が抱えている問題がこんなにたくさんあること、そしてそれは、やろうと思えば解決へ向けて**すぐに進む**ことができると教えてくださいました。**「明石でできることは全国どこでもできる。国でもできる」** そうなのだと思います。

他社で出来ることは、わが社でもできる。企業経営にも参考になることがたくさんあると思いました。『**「金がない」「人が足りない」はウソ**』という見出しのところでは、泉さんご自身が「高齢者への負担で子ども施策ができない」というのは思い込みであったと気づきません。本当はお金もあるし、人もいる。**「ただ別のところに置かれているだけ」**だと。実際、高齢者予算を削らずにお金をつくり、新たな子ども施策を実施しておられます。予算は、限られていても裕福な自治体でなくても方法はあるのです。

適材適所も然り。目指す方向に必要な人材を配置する。**適材がないのであれば「自ら育てる」**。**「専門家を引っ張ってくる」**。子どもの虐待問題では、事件が起こるたびに児童相談所の現場が責められます。でも、人の数も専門性も全く足りていないのが現実です。だからと言ってただ、人を配置するだけでは解決しません。配置に長い時間を要した経緯も記されていますが、真に人に寄り添った支援ができる人材を育てるには、時間と機会が必要です。あるべき方向と目的を十分共有し、人との関わり方についても理屈でなく本当に身につくまでしっかり研修することが必要です。人を育てる姿勢もすごいなと思いました。

日本企業が人材育成にける費用は、世界でも最低クラス。会社発展のためには、将来を見据え、必要な人材を時間をかけて育てることが求められます。また、職員が特定の業界の利益や私欲でなく、常に市民の方を向いている必要があることは、社員が経営理念を軸に顧客の方を向いている必要があるのと同じだと感じました。

このままだと日本は衰退する一方、世界から取り残されているとわかっていても何もしていない自分がいます。

5/1には、「政治はケンカだ！明石市長の12年」という本を出されたようです。あきらめず希望を持って、多方面から学び、動き続けたいと思います。

2023年5月 水田かほる

